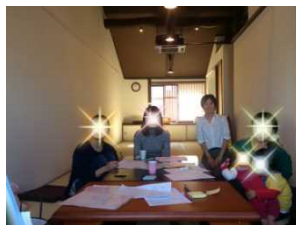


【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	敦賀市家庭教育支援チーム (呼称:親教育プロセス) URL: http://oyapro.jp
活動開始年度	平成26年度
活動拠点	敦賀市中郷公民館
活動範囲	敦賀市内を中心に県内全域 等
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input checked="" type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()
組織体制	<u> 3 </u> 人 子育てコーチ2人 スター・ペアレンティング ファシリテーター1人
具体的な活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 講座型 <input type="checkbox"/> 拠点型 <input type="checkbox"/> 訪問型 <input type="checkbox"/> 総合力 <input type="checkbox"/> その他() ○目的…のびのびと主体的に行動できる子供が育つように、親が子育ての問題を解決し自分らしい子育てができるように、役に立つ知識を提供する。また、親と子の良い信頼関係の築き方や、子供のやる気を引き出す関わり方などを提供する。 ○活動内容…子供に関わる大人を対象に、子供との関わり方(言葉遣い)について学習会を開催 ○講座内容 ・暴力なしで子育てする方法を基本に、子育ての悩みでありがちな事をテーマにして毎月お話しています。(暴力には、言葉の暴力や脅し・イヤミなど含む) ・信頼関係を維持するためにも、感情を否定しない。感情を受け取り、受け取っている 事を言葉で伝える。感情を否定されると子供は自己肯定感を下げやすく、大人との信頼関係も壊しやすくなるので、感情を認める言葉がけをする方法をお伝えしています。

- ・「恐くない」「嫌じゃない」など否定せず「〇〇ちゃんは、そう感じているんだね」と、言葉にして伝える。感情は認めても、行動は認めなくてよい。どんな感情も感じてはいけないものではなく、否定したり抑え込んでなくなるものではないことを知っていただく。ただし、行動には認められるもの認められないものがある。
- ・例えば、弟にオモチャを壊された時、怒るという感情をもつ事は認められるが、叩くという行動は認められない。認められる行動としては「やめて」と言葉で伝える事や、場所を変える、ママに言いに行くなど、叩く以外の方法がある。どんな感情であっても、何かを教えるためであっても、暴力は許されない行動である事を子供にも教えてあげる。(親のしつけもしかり)
- ・怒鳴っても、子供には伝わらない。怖い時は、怖いという感情にフォーカスするので、大人の本当に伝えたい事が伝わりにくい。また、脅しで言う事をきかせようとしても、言う事をきくのは怖い人の目の届く範囲だけになりやすく、見えないところでは守られにくい。恐さから逃れるためにだけ言う事を聞く事は、子供の将来に役に立たないという事も気付いていただく。理解して守って欲しいなら、脅さずに子供の頭で納得できるように説明をする。(その方法もお伝えしています。)
- ・「優しい親でいましょう」「叩いてはいけません」など、傍から言うのは簡単だが、それをするためにどうすればいいかという具体的な方法はあまり出回っていない。その具体的な方法を知ったり、ご自身で見出してもらうためのヒントをお伝えしています。
- ・「親はこうあるべき」「子供はこうあるべき」「子育てはこうあるべき」などといった考えは、お互いを窮屈にするので、自分たち親子にあった子育て方法を見つけられるようにしています。
- ・他には、希望者に無料子育てメールを定期的に配信。子育てのヒントをお伝えしています。



活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者のアンケートを通し、他の方の考えを聞け自分の子育てを振り返られた、早く子供に会って学んだ事を使いたくなかった等の意見があった。 ・講座開催前と比較したところ、子供の気持ちをくみ取れるようになった、子供を褒める事ができ、子供との信頼関係を取り戻す事ができた等の成果があった。 ・子供への見方が変わった、自分の子育てを振り返られるようになったなど暴力をしない自分らしい子育てに活用されている声をいただく。
活動において苦労した点や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの方に知っていただくための広報活動に苦労した。来てみたいと思ってもらえるよう、講座内容、配布場所等ちらしづくりを工夫する。
今後の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や行政機関とも連携しながら、より多くの方への講座や相談機会の提供に取り組んでいきたい。
問合せ先	<p>(部署・氏名等) 親教育プロセス 代表 三國 真弓 (TEL) 090-7752-7249 (E-mail) oya.process@gmail.com</p>